

全国の火山活動状況(1988年7月～9月)

気象庁地震火山部 地震火山業務課火山室

気象庁が常時観測を実施している18火山*とその他の火山について、1988年7月から9月までの活動状況を、この期間に得られた情報をもとに要約した。*御岳山は7月15日から観測を開始した。

全国火山活動状況を第1表に、火山情報発表状況を第2表に示す。

第1表 全国火山活動状況(1988年7～9月)

Volcano	Month		
	7	8	9
Sakurajima	▲	▲	▲
Izu-Oshima	●	●	●
Niigata-Yakeyama	●	●	●
Suwanosejima	▲	▲	
Fukutoku-Oka-no-Ba	●	●	●

▲ Eruption ● Anomaly

第2表 火山情報発表状況(1988年7～9月)

火山名	桜	阿	浅	伊	雌	十	樽	有	北	吾	安	磐	那	草	三	雲	霧
情報	島	蘇	間	豆	阿	勝	前	珠	海	妻	達	梯	須	津	宅	仙	島
	山	山	山	大	寒	岳	山	山	道	山	太	山	岳	白	島	岳	山
定期	3	3	3	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1
臨時	4			3													

桜島（鹿児島地方気象台）

月別の活動の推移は第3表のとおりである。

第3表 桜島火山観測資料

月	1988/7	8	9
噴火回数	15(11)	8(6)	12(3)
地震回数	1127	1518	1833
微動継続時間 合計 (h)	3.2	6.7	98.8

()内：爆発回数 地震回数：B点（地震+微動）

噴火活動はややおさまり、9月の爆発回数は昨年9月以降最も少ない回数であった。被害を伴うような爆発はなかった。

また、7月の降灰量は6月の記録的な降灰量と比べて60分の1と少なかったが、9月の噴煙活動は比較的活発であった。

伊豆大島（大島測候所）

三原山山頂付近のA点の地震計に記録された見かけ全振幅4mm以下の地震回数は、8月中旬ころから一時的に増加したが、9月中旬には減少した。また、火山性微動は間欠的にやや大きい振幅を記録した。

三原山山頂からの噴煙活動は活発で、8月21日には中量ながら1900mを観測した。また、この期間中時折り、測候所で硫黄臭を観測した。

浅間山（軽井沢測候所）

月別の活動の推移は第4表のとおりである。

地震活動は、8月下旬から9月中旬にかけて増加したが、以後急速に弱まり平常に戻った。

遠望観測により観測された噴煙の色はすべて白色、噴煙量は8月21日に4（やや多量）を観測したほかは、3（中量）、またはそれ以下で、噴煙高度の最高は8月7日、8日、21日の500メートルであった。

浅間山周辺の湧水の水温とpHの測定結果には、異常は認められなかった。

第4表 浅間山観測資料

観測点		月		
		1988/7	8	9
A	火山性地震	1	44	188
	火山性微動	0	0	0
B	火山性地震	28	112	559
	火山性微動	0	0	4
C	火山性地震	19	85	418
	火山性微動	0	0	0
D	火山性地震	5	55	192
	火山性微動	0	0	0
E	火山性地震	8	68	359
	火山性微動	0	0	0

阿蘇山（阿蘇山測候所）

月別の火山性地震の推移は第5表のとおりである。

第5表 阿蘇火山観測資料

月	1988/7	8	9
地震回数	13	13	8
孤立型微動回数 0.5 μ 以上	709	1016	447
連続微動平均振幅 (μ)	0.2	0.2	0.2

孤立型微動は7月下旬にやや増加したがその後減少した。

中岳第1火口の湯だまりは雨のため一時増加したものの量は少なく、噴気孔が多数観測され、なかでも南側の噴気孔が活発で、白煙勢いよく噴出している。噴気音もやや大きく、鳴動も観測された。土砂噴出は高い時で5～6メートルであった。

赤外放射温度計による湯だまりの表面温度の観測結果は次のとおりである。

月	1988/7	8	9
温度	71	65	74

雌阿寒岳（釧路地方気象台，定期火山情報：7月28日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	15	15	11

地震回数は20回以下と少なく，火山性微動も観測されていない。

釧路からの遠望観測によると，噴煙量に変化はなかったが，風の弱いときは高さが500メートルに達したことがあった。

現地観測を7月25日～27日及び9月28日～30日に実施した。結果は次のとおり。

(1) ポンマチネシリ（本峰）

第1火口は，9月には土砂が流入し噴出口が塞がれていた。噴気口の東側にある噴気孔群は活発化しており，噴気孔周辺の噴気温度は321℃であった。第4火口は噴気活動，火口周辺の状況に変化はなく，高温の状態が続いている。

(2) ナカマチネシリ第3火口

噴煙量は多く，活発な活動が続いている。

十勝岳（旭川地方気象台，定期火山情報：8月5日，9月9日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	20	15	23

この期間，火山観測所からの遠望観測では，7月3日から，62-0火口東壁に淡黄色の変色域が現れたが，9月5日には確認できなくなった。

現地観測を8月2日～3日及び9月6日～8日に実施した。結果は次のとおり。

(1) 62-1，62-2火口ともに活発な噴煙活動を続けている。62-1火口の地中温度は430℃以上の高い状態が続いており，変色域は火口全体に広がっている。また，東壁の高温域が火口底よりに拡大している。

(2) 旧火口（安政火口）では，大小多数の噴気孔がありやや活発な活動を続けている。

(3) 振子沢では，やや活発な噴気活動を続けている。

樽前山（苫小牧測候所，定期火山情報：8月1日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	1	10	1

この期間、苫小牧市内からの遠望観測による噴煙の状況はとくに変化はなかった。

現地観測を7月28日～29日に実施した。結果は次のとおり。

A火口やドームの南西噴気孔群では、活発な噴気活動が続いているが、各噴気孔の噴気温度及びドーム周辺の地中温度にはとくに大きな変化はなかった。

有珠山（室蘭地方気象台，定期火山情報：8月3日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	11	10	10

この期間、室蘭地方気象台からの遠望観測では、有珠山、昭和新山とも噴煙の状況に大きな変化はなかった。

現地観測を8月1日～2日に実施した。結果は次のとおり。

(1) 有珠山

火口原内の銀沼火口、I火口および小有珠南東斜面などを中心に活発な噴気活動が続いており、噴気には有毒なガスが含まれている。I火口とその周辺では高温の噴気孔が多数あり、噴気温度が500度を越える場所がある。

(2) 昭和新山、四十三山

とくに変化はなかった。

北海道駒ヶ岳（森測候所，定期火山情報：7月28日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	2	0	1

この期間、森測候所からの遠望観測では、噴煙、その他、とくに変わった現象はなかった。

現地観測を7月26日～27日に実施した。結果は次のとおり。

(1) 大正火口付近の噴気地帯では、最高温度が97℃度と全般的に高温の状態となっている。

(2) 昭和火口、安政火口、および亀裂の所々では弱い噴気活動を続けている。

(3) 山麓温泉の状況は、とくに変化がなかった。

吾妻山（福島地方気象台，定期火山情報：8月17日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	1	4	3

この期間，福島地方気象台からの遠望観測では，噴煙量は極めて少量だった。

現地観測を8月8日と10日に実施したが，各観測点とも異常は認められなかった。

安達太良山（福島地方気象台，定期火山情報：8月17日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	2	4	4

現地観測を8月4日～5日と9日に実施した。結果は次のとおり。

沼の平西側登山道付近の噴気地帯では，地熱の高い状態や噴気活動が続いており，その西側と南側で新たに弱い噴気が見られた。また，鉄山南斜面登山道付近の噴気地帯では，引続き亜硫酸ガスが検出された。

磐梯山（若松測候所，定期火山情報：8月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	18	21	18

現地観測を8月2日～3日に実施した。結果は次のとおり。

63年6月の観測結果と比較し，各観測点とも異常は認められなかった。

那須岳（宇都宮地方気象台，定期火山情報：8月9日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	10	51	17

この期間，火山観測所からの遠望観測では，噴煙量は少量で，特別な変化は認められなかった。

現地観測を5月25日～26日に実施した。結果は次のとおり。
各地点とも、とくに異常は認められなかった。

草津白根山（前橋地方気象台、定期火山情報：8月25日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	23	16	27

この期間、火山遠望隔測装置による遠望観測では、表面現象に異常は認められなかった。
現地観測を5月30日～31日に実施した。結果は次のとおり。
表面現象、噴気のガス濃度等に大きな異常は認められなかった。

御岳山（松本測候所、定期火山情報：8月25日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	110	260	249

7月15日より観測を開始した。この期間、火山遠望隔測装置による遠望観測では噴煙の高さは稜線から30～110メートルで、色は白または灰白色だった。

現地観測を9月21日～22日に実施した。結果は次のとおり。
山頂付近では王滝山頂の西側で3カ所、地獄谷で3カ所に噴煙の上がっているのが確認された。

三宅島（三宅島測候所）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	48	3	1

雲仙岳（雲仙岳測候所、定期火山情報：8月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	50	23	21

現地観測を8月5日に、雲仙地獄、小浜温泉で実施したが、とくに変化は認められなかった。

霧島山（鹿児島地方気象台，定期火山情報：8月16日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/7	8	9
回数	11	17	10

現地観測を8月2～3日に高千穂御鉢，新燃岳の両火口で，また，9日に山麓周辺で実施した。

新燃岳火口内第8火孔（火口湖南東側）及び手洗温泉北東側のNo.3測点で，従来は少量の白色噴気が観測されていたが，今回は活動を休止していた。